

令和元年度 長門高等学校 学校評価書

1 学校目標

校 訓 「自治」「自学」「自尊」

自治能力のある者は、社会のルールを守り、物の道理に従い自らを規制してゆくことができ、自らの言動に責任を持つ者である。学ぶということは本来自力本願のものであり、他人に依存するべきものではない。人生において価値のあるものは、それを得るに足りるだけの学びの努力をし、自らの潜在する能力を引き出すことである。自らを尊ぶ者は、他人はなおさら尊ぶことができる。人の命の尊厳、人権の尊重、生活の尊重等である。しかし、自らを尊ぶということはただ単に他人を尊重することのみではなく、すなわち自らを軽視せず、自らの力を信じ、自らの持つあらゆる可能性を信じ、最高の自己を顕現する積極的な意味を持つものである。

生活信条 五訓「素直」「感謝」「謙虚」「奉仕」「謙譲」

建学の精神 校訓を基に、知識と技術を基盤とする社会の到来を予測し、学ぶ意欲を持ち、そのための努力を惜しまない全ての者に門戸を開くという建学の精神の下、本校は 1956 年に開校した。北浦地域で教育が受けられなかった生徒にその機会を与え、この地域になくしてはならない人材の育成に力を入れる。

教育方針 建学の精神と校訓を基盤とし、「知識と技術」を両輪に社会で生きる高校を目指し、一人多資格取得を目標としている。商業科は勿論のこと、普通科においてもその取得可能な資格は多種に及んでいる。また、ただ資格の数のみではなく、常にステップアップした資格取得を目指しサポートを続けて行く。一人ひとりにあったきめ細かい指導や支援をし、生徒の持つ潜在能力を顕在能力へ置き換えられるよう個々の目標を設定し、徹底した「実学教育」によって社会で活躍し、貢献できる人材を多数輩出してきた。時代の変化、環境の変化に柔軟に対応できるカリキュラム編成を心がけ、グローバルな視点を持つ生徒の育成に全力を傾けている。

教育目標 1 基本的な生活習慣の確立。

2 生徒の能力を引き出すよう、きめ細かい教育指導に努める。

3 個性を尊重し将来を見つめながら、能力、適性に応じた進路指導を行う。

※保護者は出口を評価する。

4 国際社会に向けてグローバルな視点を持つ生徒を育成する。

5 通信制課程においては、高校卒業資格取得まで支援するとともに、地域社会に貢献できる若者を育成する。

「建学の精神」に従って生徒を受け入れてきた。ゆえに生徒の能力は様々であり、その質も多様化している。その生徒に「知識と技術」を徹底した「実学教育」により身につけさせ、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性を備えた、真に次代を担うにふさわしい人材としての自己実現を目指さなければならない。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

生徒指導

①基本理念

『生活信条五訓を重んじ、生きる力を身につけた人材の育成』

②目標

- 頭髪・服装の徹底
- 目上の人に対しての言葉遣い
- 相手に伝わる挨拶
- 時間厳守(遅刻、授業開始時間厳守)
- 携帯電話の使用マナー
- 授業の取り組み姿勢
- 問題行動未然防止
- いじめ撲滅

③留意事項

- 頭髪・服装検査だけ合格すれば良いということではなく、継続した指導を担当の先生を中心に行う。そして、いつでも就職試験に行ける状態であることを意識する。
- 携帯電話の使用マナーについて、罰則規定を含めて周知させる。
- 生活調査アンケートを実施し、問題行動や、いじめ撲滅のための未然防止。早期発見、早期対応のための情報提供を行う。
- スクールバス乗車マナーを徹底し、周囲に迷惑がかからないようにする。
- 本校生徒としての誇りをもち、校歌を大きな声で歌えるように指導する。

進路指導

1 進学

- 模試分析や進路希望調査、学習状況調査などから、個々の生徒に応じた学習の在り方について指導する。
- 外部の業者による進路ガイダンスを実施して、キャリア教育を含めた指導体制を築く。

2 就職

- 就職試験対策は3年になってからでは遅いので、1・2年次より就職に対する意識付けを行い、欠席しないように心掛けさせる。
- 学校生活全般の目標に沿った指導体制の着手を早目に行い、特性を発揮する。

*私立高校県内定住促進事業 *企業職場見学 *企業訪問

*高校生就職ガイダンス *インターンシップの実施

● 強調事項

- ・働くことの意義
- ・基礎学力の充実
- ・挨拶、返事、態度の徹底指導
- ・教務、生徒指導係との連携強化

特別活動

- 体育大会、緑風祭(文化祭)、クラスマッチなどの学校行事に、生徒会や企画・運営委員を中心に主体的に取り組み、より価値観の高いものにする。
- 部活動顧問会議を通して、クラブ活動の在り方について共通認識を持つ。
- 本校生徒としての誇りをもち、地域のボランティア活動に主体的に参加協力する。

情報・広報

- 緊急メールの登録を推進し、緊急時に円滑な情報伝達が行えるようにする。
- ホームページについて、学校内外の期待に応えられる改善と更新に努める。
更新に際しては、迅速な更新に努め、広く周知できるようにする。

いじめ対策・体罰対策・学校諸問題

- 生徒指導部が中心となって生活調査アンケート等を実施し、いじめ等の実態把握に努めると同時に、生徒への抑止効果を図る。
- 部活動や教育活動全般において、体罰が行われないように注意する。また、生徒指導において、効果的な方法について研修する。
- 外部からの電話等による苦情が入った時は、状況確認を適切に行い、相談連絡されているという認識のもとで、対応を誠実かつ丁寧に行い、改善に努める。

保体環境

①環境美化

- ・ 美化委員を活用して、掃除の見回り監督を強化して環境美化に努める。
- ・ 掃除道具の定期点検を行い。不備のないように確認する。

②防災安全

- ・ 定期的に防災、不審者対応避難訓練を実施し、避難経路や役割分担の確認を行う。
- ・ 危機管理マニュアルの防災安全の見直し、改善を行う。

③健康衛生

- ・ 健康増進の意義を理解し、生徒自らが実践できる能力と態度を育てる。
- ・ 学校保健年間計画の実施と見直し改善を図る。
- ・ 定期健康診断を計画的に実施し、異常がみられた生徒に対して治療勧奨する。
- ・ 朝の SHR で健康観察を充分に行い、生徒の健康状態を把握する。また、インフルエンザ等の出停となる感染症は感染の拡大を防ぐため、直ちに病院に行かせて出停にする。
- ・ 普段から手洗い、うがいなどの感染症対策に努める指導を行う。

3 本年度重点を置いて取り組むべき課題

①安全・安心な学校生活

- ・ 事故防止対策
 - ・ いじめ防止対策
- 学校危機管理マニュアル、いじめ対策基本方針に基づいて
安全安心な学校生活の保持に努める。
- ・ 防災、不審者対応避難訓練の見直し及び実施
 - ・ 交通マナー向上や交通事故減少を目指した指導の強化を図り、交通安全規範意識の高揚。
 - ・ 思いやりのある豊かな心と健やかな体づくりの推進
 - ・ コミュニケーション能力の育成(自他の尊重、認め合い高め合う力の育成)
 - ・ 自己肯定感・自己存在感をもたせる指導の充実
 - ・ 規範意識や倫理観の醸成

②明るい職場づくり

- ・ 職員間の決定事項は、全員が一致協力して実行。
- ・ 笑顔で挨拶し、生徒とのコミュニケーションをとる。

③特色教育

- ・ 生活指導の徹底(服装、髪型、挨拶、礼儀、態度…) まず、教員が見本となる。
- ・ 各講座の充実(建機、医療事務、公務員、ニーズを見ての講座の設定)
- ・ 部活動を通しての生徒づくりと学校の活性化
- ・ 体験学習活動や地域ボランティア活動への取組の充実

④授業時数の確保

- ・行事の精選、自習時間の皆無 出張や年休の時間変更は早めに申し出る。
- ※今年度は緑風祭(文化祭)を一日開催として、それにかかる時間を最小限にした。

⑤進路指導

- ・学年に応じた進路指導と個別相談 三者懇談の実施。
- ・支援組織や就職指導員を活用した進路指導。
- ・履歴書記入の仕方について徹底指導をする。
- ・インターンシップや応募前見学を積極的に推進し、希望の職種や仕事内容に理解の相違が生じないようにする。

⑥学習指導(やる気を起こさせる授業、わかる授業、役立つ授業)

- ・到達度を把握しての授業の取り組み
- ・習熟度別授業の活用 クラス分けと評価に気をつける。
- ・授業目標達成に向けた、シラバス・進度表の見直し
- ・課外授業、特別講座に積極的に協力し、学力の向上を図る。
- ・技能取得のための授業改善と特別指導
- ・普通科の英語では、T・Tによる授業展開により、きめ細かい学習指導を行う。

⑦生活指導

- ・生徒指導は同一視線、同一歩調で共通理解のもと、ぶれることなく行う。
- ・社会人から認められる生活指導 いつでも就職試験にいける状態を保つ
- ・個別指導による個の伸長
- ・生徒の状況に応じた適切な相談・支援体制の一層の充実
生徒の言動を把握し、早期指導(言動の変化を見逃さない)
- ・繰り返し問題行動が発生しないように、停学中の指導の徹底を強化し、反省を十分にさせる。
- ・保護者との相互の連携による粘り強い指導で、退学者0をめざす。

⑧クラス指導

- ・特色あるクラスづくり(出席率の向上、整理整頓…)
- ・クラス委員の活動の場の設定
- ・LHRの持ち方の研究
- ・朝のSHRの時間の有効活用
- ・掃除の時間を通して勤労意欲の向上、生徒理解に努める。
- ・体育大会や緑風祭などの学校行事におけるクラスの取り組みを、クラス全員で協力していく体制づくりを強化する。

⑨寮の環境整備

- ・寮の規則の見直しと、寮生の規律ある生活習慣の確立
- ・整理整頓された部屋と廊下周辺的环境美化
- ・食育の推進
- ・睡眠時間の確保

4 自己評価				
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	達成状況の診断・分析	評価
生活指導	●頭髪・服装の徹底	全校集会で頭髪・服装検査の実施 不合格者は翌日再検査を行う。眉などは毎週水曜日に継続検査を行い、きちんとするまで行う。	頭髪・服装検査は事前指導により、合格できる形で検査に臨ませているため、達成状況は良好である。しかしながら、検査後に違反する生徒が、極一部であるが見られる。 いつでも就職試験に臨める髪型服装の徹底を日々行う必要がある。 【保護者肯定率 80%】	A
	●目の上の人に対しての言葉遣い ●相手に伝わる挨拶	職員室に入るときの礼法や、授業の開始と終わりなど、学校生活全般において正しい言葉遣いを繰り返して指導する。 基本的マナーを徹底指導する。	職員室の出入りにおいては、先生方が常に指導されるため、ほとんどの生徒が達成できているように思える。学校評価アンケート結果でも、挨拶などの基本的マナーを身につけさせるための指導は高い評価を得ている。 【肯定率生徒 87% 保護者 83%】	A
	●時間厳守	授業開始時刻で遅刻することのないように指導。 また、授業の準備をきちんとして待つようにさせる。	10分の休み時間で移動教室や体育の着替えなどがあるが、全体的に良いように思える。また、授業終了時についても、先生方が延長して授業をしないように注意する。	B
	●携帯電話の使用マナー	携帯電話は許可制で、ほぼ全員が所持している。 学校では朝の SHR で預かり、帰りの SHR で返却することを徹底している。授業や休み時間などの学校生活で使用することがないように指導し、違反した生徒には別途罰則規定に従って指導する。	携帯電話の管理は、担任の指導により、学校では預けることが徹底されている。違反者における罰則規定が徹底されていることが要因としてあげられる。ただし、家庭生活におけるラインや SNS でのトラブルなど見えない部分での人権を考慮した使用マナーを指導する必要がある。	B
	●授業の取り組み姿勢	授業の状態について、生徒指導部並びに担任が巡視し、生徒の意欲的な学習の参加を促している。	各教科担当が、教材研究を熱心に行い。アクティブラーニングの手法で、生徒が主体的に学習に取り組むように工夫する。1・2 学期には授業研修を積極的に行い教科指導の強化に努めた。 保護者肯定率は 65%と昨年同様の結果となっており、改善策が求められる。	C

生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ●問題行動未然防止 ●いじめ撲滅 	<p>定期的に生活調査アンケートを実施し、金銭の貸し借りや所有物の紛失等の把握を的確に行う。そして問題行動やいじめ撲滅のための未然防止。早期発見、早期対応をして行く。教育相談期間で生徒の悩み等に対応する。</p>	<p>今年度は、いじめに関する事案は報告されていない。しかしながら、SNS等からのいじめは把握しにくい面があるため注意が必要である。従って、生徒や保護者からの報告・連絡・相談がしやすい連携体制の強化が求められる。「悩みや困ったことがあった時は先生に相談できる」という肯定率が65%と意外と低いことが課題である。</p>	B
	<ul style="list-style-type: none"> ●スクールバスの利用マナーの向上 	<p>スクールバスの乗車態度について、注意事項のマニュアルに従ってきちんとさせる。</p>	<p>学校評価アンケートでも、乗車態度が悪く、周りに迷惑をかけている生徒がいるので対策を講じたい。</p>	C
進路指導（進学）	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭学習習慣の確立 ●基礎学力の確実な定着とより高い進路目標の実現に向けた学力の養成 	<p>普通科では各教科の課題やスタディーサプリを活用した自主学習を積極的に行うように指導する。商業科では各種商業検定に合格できるように家庭学習を意欲的に取り組ませる。</p>	<p>部活動との両立が難しい面もあるが、文武両道で向学心をもって、家庭での時間を有効活用できるように指導する。そのためにも学習計画表を立てさせて計画的な学習支援を行う。学校評価アンケートの保護者用においては家庭学習については、一部厳しい評価が見られた。</p>	C
	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育の推進 	<p>外部講師による進路ガイダンスを計画的に実施し、進路別テーマ学習を各学年に即して積極的に行う。</p>	<p>進路情報が適切に行われているという生徒・保護者アンケート結果が、昨年度と比較すると、保護者が7%ダウンし、生徒も4%下がっている。今後も、ガイダンスの様子等をHPにアップするなどして、本校の取り組みについて広く周知させる必要がある。 【肯定率 生徒 86% 保護者 76%】</p>	B
	<ul style="list-style-type: none"> ●指定校推薦など推薦基準に達するための資格取得に対する取組の推進 	<p>推薦基準を適切に把握し、それを得るための主体的な取り組みを推進する。</p>	<p>指定校推薦は校内選考を適切に行い、それにふさわしい生徒を選ぶ。指定校が今後も継続するように留意する。</p>	A
進路指導（就職）	<ul style="list-style-type: none"> ●早期より就職に対する意識付けを行い、就職内定100%に向けた組織的な取り組み 	<p>1・2年次より就職で大切な欠席をしない学校生活を意識させ、皆勤をめざさせる。また、教科と連携し、SPI対策や履歴書の作成などきめ細かい指導をし、対策を万全にする。さらに支援組織や就職指導員を活用した進路指導の充実を図る。</p>	<p>昨年度は3名の不合格者が出て、その後生徒の適性を慎重に見極めて、時間がかかったが何とか就職を決めることができた。昨年度と同様に、5月には企業訪問を行い、入社後の生徒の追跡調査を行い、動向を把握するとともに企業とのパイプをしっかりと繋げて行きたい。</p>	A

進路指導(就職)	<p>◎キャリア教育の推進</p>	<p>県内定住仕事フェアへの積極的な参加及びインターンシップや応募前見学を積極的に推進する。そして、希望の職種や仕事内容に理解の相違が生じないようにし、離職率を下げる取り組みの強化をする。</p>	<p>入社後の生徒の動向については把握しにくい面があるが、離職せずに会社に貢献できる生徒の育成が求められる。それこそが次年度への就職求人につながることである。</p>	B
特別活動	<p>◎生徒会を中心とした学校行事の運営</p>	<p>体育大会、緑風祭、クラスマッチなどの学校行事に生徒会や企画・運営委員を中心に主体的に取り組み、生徒のアイデンティティを高める。</p>	<p>学校評価アンケートでも、学校行事における生徒の主体的な取り組みは高く評価され、保護者肯定率は85%であった。ただし、生徒評価では生徒会活動について肯定率は68%であった。判断できないという回答が45名と多く見られ、その理由を検証する必要がある。生徒会役員選挙については、会長・副会長ともに複数の立候補があり、生徒会に対する意識の高さを感じられた。新生徒会を中心に学校の活性化を願う。</p>	B
	<p>◎地域ボランティア活動への積極的な参加、協力をすすめる。</p>	<p>キッズ・トライアスロン、24時間テレビの募金、ちびなが商店街、焼き鳥んピック、赤い羽根共同募金、長門サイエンスフェスティバル、長門スポーツフェスティバルなどへのボランティア活動に積極的に参加協力した。</p>	<p>様々なボランティア活動に参加協力することで、奉仕活動の大切さを理解することができた。また、地域社会からも生徒の活動が高く評価された。</p>	A
情報・広報	<p>◎ホームページの迅速な更新</p>	<p>学校行事の内容について、内外に広く周知していただくため、迅速な更新を心掛ける。</p>	<p>学校評価アンケートで、学校をよりよくしていくための方法で、HPの更新の指摘があった。他校と比べると、リアルタイムで学校行事についてHPに迅速に更新されておらず改善が求められる。</p>	C
報	<p>◎緊急メール登録の推進</p>	<p>台風などの天災時に備えて、指示・伝達を円滑に行うため登録の推進をする。</p>	<p>保護者の理解と協力を求めて、まちcomiメール登録率を上げる。必要に応じてメール発信を行い、有用性を広げて行きたい。</p>	B

保 体 環 境	●学校安全点検を学期に1回(年間3回)定期的に実施	室管理責任者を中心に学校安全点検を実施する。そして、危険個所の改善を行い、安全・安心な学校生活を送れるように配慮する。	学校教員の安全配慮義務は、生徒の生命と安全・安心の確保において、全教育活動の基盤となる取組である。従って、学校評価アンケートにおいても重点的に考慮して行くことが大切である。 【肯定率 生徒 73% 保護者 82%】	B
	●防災、避難訓練の実施と見直し改善	各学期に防災、避難訓練や不審者対策の訓練を実施し、学校危機管理マニュアルの見直しをする。	消防署や警察署との連携により避難訓練を実施し、生徒にとっても有意義なものとなっているように感じる。	A
	●定期健康診断の実施及び異常がみられた生徒に対する治療勧奨	健康調査票で、身体の異常の確認を行い、学校と家庭が連携を図る。	定期健康診断で、異常が見られた生徒に対して、長期休業中に治療することを文書で通知しているが、完治の報告がない生徒も見られた。	B
	●感染症対策	健康観察を充分に行い。生徒の健康把握に努める。また、インフルエンザなどの感染症は必ず報告し、病院の許可が出るまで出停にし、感染拡大を避ける。	今年度末には、新型コロナウイルス感染症が流行したが、日頃から手洗い、うがい、換気などの感染症対策の指導を周知徹底し、保護者に対しても、その対応の在り方を認識させる。	B
そ の 他	●学校満足度の向上	学校満足度を高めるため、常に生徒のニーズは何かを検討し、新たな取り組みを企画・実践する。	学校評価アンケートの生徒・保護者用でも、本校に入学させて良かったという肯定的なものであり、満足できる結果であった。しかしながら、昨年度と比較すると、生徒のパーセントが、6%下がっており、生徒や保護者の求めているものを的確に捉えて対応することが求められている。 【肯定率 生徒 73% 保護者 89%】	A
補 足	肯定率は、学校評価アンケートの評価で、1.よく当てはまる 2.やや当てはまる 3.あまり当てはまらない 4.全く当てはまらない 5.判断できない の回答で、5を除く回答者のうち、1.2.の占める割合である。また評価については、学校評価、生活調査アンケート並びに関係機関からの意見などを踏まえて評価している。			

5 学校評価総括(取組の成果と課題) (○：成果 ●：課題)

【教務部】

- 教育相談期間を1・2学期の始めに実施し、学習に対する悩みなど、生徒理解の向上につなげることができた。
- 情報化社会で家庭において、SNSなどに時間が浪費され、家庭学習時間は著しく減少傾向にある。家庭学習調査などから計画的な学習の在り方について指導していく必要がある。
- 成績不振者(評定で1がついた生徒)への対応において、学期末ごとに課題や補習により補充させているが、生徒によっては課題が出せないなど、補充できない生徒が見られる。安易に単位が認められるというように生徒が感じないように、やらせるべきところは厳しく、徹底してやらせる必要がある。

【生徒部】

- 入学後、直ちに2泊3日の宿泊研修を実施し、人間関係作りなど、1年生は順調な学校生活をスタートさせたように感じる。
- 月一度の全校集会における服装頭髪検査を通して、担任が中心となって不合格者に対する指導の徹底により、いつでも就職試験に行ける状態を維持している。
- 今年度よりスクールネットパトロール(ピットクルー株式会社)を導入し、指導により不適切な画像をSNSに上げる生徒が減少傾向にある。
- 一部の生徒の中には、検査に合格すれば良いという考え方で、合格後に違反する生徒が見られ、そうした事のないように、常に生徒の状態を観察して把握しておく必要がある。
- スクールバスが運行されて数年が経ち、それが当たり前のような感覚があり、利用者のマナーの低下が目立っている。スクールバスの事故から2年目となり、巡視指導も検討して行きたい。

【進路部】

- キャリア教育の推進により、進路ガイダンスを計画的に実施し、生徒の方向性を早期に決定させることができた。
- 就職希望者数は昨年度より大幅に増えたが、SPI対策や履歴書の作成、面接指導など、きめ細かい指導により大手企業をはじめ、生徒が希望した就職先の内定を決めることができた。
- 今年度の就職の好結果を次年度にもつなげて行きたい。

【保体環境】

- 毎朝のSHRの健康観察や健康便りは、感染症の初期対応や傷病の早期発見等に効果を上げている。
- 学校安全点検を学期1回の年3回行うことで、教職員の安全管理意識の向上に寄与している。
- 今年度は、緊急処置はなかったが、エビペンを所持している生徒など、多様な病状を抱えた生徒がおり、新任をはじめ、若手の先生方も増えているため、救急救命・AED講習を実施する必要がある。昨年は上級の救急救命講習に3名、Ⅱ種に3名の先生方が新たに受講している。今後も継続的に受講させたい。

6 次年度への改善策

【教務部】

- ・授業評価アンケートを教科担当からクラス担当で実施し、全科目について実施し、評価検証を行った。生徒の授業に対する不満な面について、各教科主任を中心に教科会議を行い、改善に向けた研修を実施して行く。
- ・教育相談期間を活用して、中学から個別の支援計画を必要としていた生徒などの引継ぎを受けた生徒以外にも、生徒全員に対して生徒理解アセスメントを行い、学習支援の在り方を模索する。
- ・若手の先生方が増えており、各教科に定められている週 1 時間の教科研修時間を利用して、研修授業を実施し、先生方の授業力を高めさせる。
そして、授業方法の改善と工夫をし、生徒が主体的に教育活動に参加できる指導体制を構築する。
- ・来年度は、授業研修、新任研修を組織的に行い、先生方のスキルアップをして行く。

【生徒部】

- ・ SNS 等の情報モラルが欠けている生徒が見られるため、スクールネットパトロール(ピットクルー株式会社)を導入。不適切な画像を SNS に上げた生徒への指導を適切に行い、倫理観を高めさせたい。保護者を対象とした情報モラル研修会を育友会総会などで実施して行きたい。
- ・ 授業状況を把握するため授業巡視を定期的に行う。

【進路部】

- ・ 昨年同様にキャリア教育の推進に力を入れて、適切な進路選択および早期進路決定をめざす。

【保体環境】

- ・ 先生方のストレス改善に向けた相談の機会を設置し、病休などが生じないように配慮する。また、昨年同様に学校の安全安心に対する配慮を入念にして、生徒の学校生活における安心感を高めさせる。

【その他】

- ・ 部活動においては、本校の部活動運営方針に基づき、適切な休養日を設定し、計画的、能率的な部活動の運営をする。そして、合理的かつ効率的・効果的な活動の推進のための取組をし、公式試合等においても成果が上がるように PDCA サイクルで、検証・改善して行くことが望まれる。
- ・ 生徒および保護者が長門高校に入学して良かったという満足感のある学校生活を送るための手立てをする。
- ・ 学校評価アンケートで、5.の判断できないに回答した割合が高いものについては、質問内容の在り方も含めて検討する必要がある。